

祝 辞

文部科学大臣 末松 信介



第89回全国書画展覧会が、「筆の都」である広島県熊野町において開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

また、この度入賞されました皆様、誠におめでとうございます。

昭和6年に始められた全国書画展覧会は、今回で89回を迎えます。この伝統ある全国書画展覧会は、我が国の伝統文化である書写・書道及び図画工作・美術教育の振興に寄与する展覧会として、多くの方から高い評価を得ています。本年度も全国の小・中学校、海外22か国32地域の日本人学校等から、書写の部及び画の部を合わせて約11万5千点もの力作が寄せられたと伺っております。

さて、学習指導要領では、国語科書写において、書写の学習で身に付けた資質・能力を、各教科等の学習活動や生活の様々な場面で積極的に生かす態度を育成することを求めています。また、美術においては、創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培うことなどを求めています。

筆を使って正しく整った文字を書いたり、あるいは楽しく美しい絵を描いたりすることは、一人一人の豊かな文字感覚や情操を高めるとともに、我が国の伝統文化に対する理解を深めることにもつながります。

今回、この展覧会に多くの児童生徒の皆さんが、すばらしい書や画の作品を出品されたことは、書写・書道及び図画工作・美術の水準を一段と向上させることに大きく寄与するものです。今後皆さんが、表現力を一層伸ばし、やがては新しい時代の文化を創り出すようになることを期待しています。

結びに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が懸念される中、様々な対策を講じながら、児童生徒の学習の成果を披露する場である本展覧会の開催に御尽力された、全国書画展覧会運営委員会の皆様に感謝申し上げます。本展覧会が今後とも我が国の子供たちの豊かで健やかな成長を促し、ますますの発展を遂げられることを祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

祝 辞

広島県知事 湯崎 英彦



「第89回全国書画展覧会」が、全国一の筆の生産量を誇る熊野町において、今年も盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

この度入賞された皆さんにおかれましては、誠におめでとうございます。この受賞は皆さんのたゆまぬ努力の賜物であり、また、熱心に指導に当たられた先生や、応援してくれた家族の皆さんのおかげでもあります。今後ともさらなる精進を重ね、人々の心に響く素晴らしい作品を創作されますことを御期待申し上げます。

全国書画展覧会は、長い歴史と伝統を重ねた、我が国最大級の規模を誇る書画展として広く知られており、今回も約11万5千点もの作品が、国内はもとより海外からも出品され、国際色豊かな展覧会として、全国から高い評価を得ています。

これもひとえに全国書画展覧会運営委員会をはじめ、関係各位の長年にわたる御尽力の賜物であり、深く敬意を表する次第です。

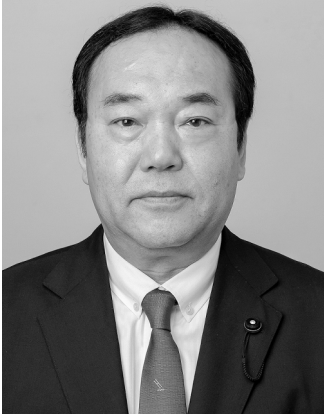
今般、新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの文化芸術活動が中止・延期せざるを得ない状況となっている一方、多くの方々が文化芸術の大切さに気付かれたことと存じます。多彩な表現を楽しむことのできる書や画は、心の教育の一環としても期待できる文化芸術として、本県におきましても、県民の皆様の文化芸術活動への一助として、作品の発表や鑑賞の機会の提供に努めているところであり、このような中で、全国書画展覧会が開催されることは誠に意義深いことと存じます。

この全国書画展覧会へ来場される皆様が、新たな書画の魅力を発見していただくとともに、書画を通じた交流の輪が一層広がりますことを願いたします。

結びに、本展覧会の御盛会と、今後ますますの御発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

祝 辞

広島県議会議長 中本 隆志



第89回全国書画展覧会が、「筆の都」熊野町において盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

また、各賞を受賞されました皆様の御栄誉を称え、心からお祝い申し上げます。

御案内のとおり、昨年から続く新型コロナウイルス感染症が社会経済に大きな影響を及ぼす中、本年も、全国の小中学校や塾はもとより、海外の日本人学校などから、約11万5千点もの作品が寄せられましたことは、皆様方が毛筆書写書道教育及び美術造形教育の振興等に長年取り組まれてきた成果であり、深く敬意を表する次第です。

書写・書道は、忍耐力や集中力を養うとともに表現力や理解力を向上させ、また、絵画は、感じ取ったまま自由に表現することにより、創造活動の喜びを味わうとともに豊かな情操を養うなど、子供たちの成長に様々な効果が期待されております。

また、熊野筆は、書筆のみならず、画筆、化粧筆としても高い評価を得るなど、今や世界に誇る日本の伝統的工芸品であり、この展覧会が筆生産量日本一の熊野町において毎年開催されますことは、伝統ある日本文化の継承を図る上でも、誠に意義深いことと存じます。

私ども県議会といたしましても、引き続きゆとりと潤いを実感できる心豊かな県民生活の実現に努めてまいりますので、皆様方におかれましても、より一層の御協力をいただきますようお願い申し上げます。

終わりに、開催に当たって御尽力いただいた運営委員会の皆様をはじめ、関係各位に深く敬意と感謝の意を表しますとともに、全国書画展覧会のますますの御発展と、皆様方の御健勝、御活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

祝 辞

広島県教育委員会教育長 平川 理恵



「第 89 回全国書画展覧会」作品集が刊行されますことに 対しまして、心からお慶び申し上げます。

また、日本一の筆の産地である「筆の都」熊野町において、全国書画展覧会が盛大に開催され、この度、優秀作品として各賞を受賞されました皆様に、心からお祝い申し上げます。

さて、今年で 89 回を迎える全国書画展覧会は、書画の魅力を生かして長年にわたって国内外に向けて発信し続けてこられました。今年度も海外 22 か国 32 地域の日本人学校等からの出品も含め、全国から約 11 万 5 千点もの作品が集まっているのは、本展覧会の大きな成果であり、我が国の言語文化に親しむ機会としても大きく貢献していただいております。

小・中学校の国語科の学習指導要領では、書写に関する指導事項の内容を理解し使うことを通して、各教科等の学習活動や日常生活に生かすことのできる書写の能力を育成することの重要性が述べられており、加えて、今年度から新学習指導要領が全面実施された中学校では、特に、我が国の伝統的な文字文化を継承し、これからの社会に役立つ様々な文字文化に関する「知識及び技能」について理解し、文字を効果的に書くことができる力を育成することが大切であると示されております。

近年、G I G A スクール構想により、子供たちが一人 1 台端末を活用する時代においても、目的や状況に応じて、扱う筆記具や表現方法を選択し、文字を効果的に書けるようにしていくことは大切であると考えております。

熊野町におかれましては、『熊野筆』の名で知られる「筆の都」としての特色を生かし、町を挙げて伝統文化の継承・発展に取り組んでおられます。また、小学校低学年の授業に書道科を導入し、伝統文化に親しませるとともに、児童の落ち着きや心の鍛錬、集中力などの資質を伸ばし、心の豊かさを育む取組を進めておられます。

これらの取組及び本展覧会の開催は、我が国の伝統と文化の素晴らしさに触れることができるとともに、児童生徒に生涯にわたって書を愛好する心情を育て、書の文化を尊重する態度を養うためにも、大変有意義なことと考えております。

終わりに、全国書画展覧会の開催に向けて御尽力いただきました関係者の皆様に、心から敬意を表しますとともに、本展覧会のますますの御発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

祝 辞

熊野町長 三村 裕史



はじめに、昨年から続くこのコロナ禍の中においても、変わらず全国各地から多くの作品をご応募いただき、第89回全国書画展覧会を筆の都「熊野町」において開催できますことを関係者の一人として大変光栄に感じております。

本展覧会は昭和6年に始まり、多くの学校並びに書道塾の先生や保護者の皆様に支えられ、規模、内容ともに充実した国内最大級の公募展として、熊野町民の誇りともなっています。

今回も全国の小・中学校および書道塾、海外の日本人学校などから、書写の部、画の部合わせて約11万5千点もの応募をいただきました。会場に展示されました作品を拝見いたしまして、皆様の平素たゆまぬ努力と精進の甲斐もあってこそその受賞と思ひ大変敬服しているところでございます。

作品の出展に際し、ご協力いただいた指導者並びに関係者の皆様には心より感謝申し上げます。

さて、本町においては、筆に関わる教育の一環として、学習指導要領では小学校3年生から始まる毛筆を使った書写教育を、小学校1年生からの低学年書道科として実施しております。幼稚園・保育園等においても筆の博物館である「筆の里工房」で作品の鑑賞や筆を使った体験プログラムを実施するなど、子どもたちの豊かな感性と鑑賞の力を伸ばすとともに伝統的な文化に対する理解の醸成につなげております。

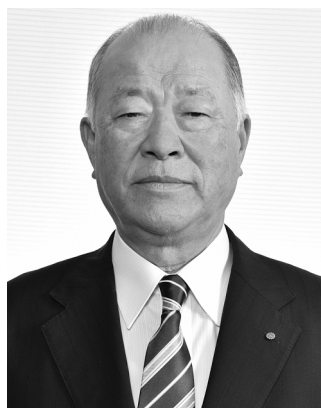
皆様におかれましては、今後とも、この受賞を励みとされ、より一層の研鑽を積み重ねられ、素晴らしい作品を創作されますことを期待しております。

結びに、この展覧会の開催に当たり、国、広島県をはじめ、関係諸団体から御支援、御協力をいただきましたことに深く感謝を申し上げまして、お祝いの言葉いたします。

ご挨拶

全国書画展覧会運営委員会

委員長 山吹 富邦



本年も新型コロナウイルス感染症の影響で、本展覧会の開催をたいへん心配をいたしましたでしたが、第89回を迎えることができました。全国の小中学校や塾の先生方のご協力と児童生徒の努力、保護者の皆様のご支援に心より感謝を申し上げます。

今回も全国47都道府県から小学校633校、中学校1070校、塾等942団体、また海外からも22か国32地域の日本人学校と台湾から、合わせて11万5千点を超える作品を出品していただきました。

「筆といえば熊野を思い、熊野といえば筆を想う」熊野町は毛筆、画筆、化粧筆の国内生産日本一の筆の都です。熊野町における全国書画展覧会は、国語の基礎基本である文字教育と日本の伝統的な文化である毛筆書写書道、また、美術造形教育の振興と保護の立場から運営を進めてまいりました。

この度、栄えある賞に入賞されました児童生徒の皆さん、誠におめでとうございます。受賞された皆さんは、今回の受賞を励みとし今後も一層精進していただきたいと思います。また、優秀校に選ばれました学校におかれましては、校長先生をはじめ諸先生方の熱心なご指導と児童生徒の努力の賜物であり、深く敬意を表しお慶びを申し上げます。

審査につきましては、現在の教育課題に適応した内容などを審査とするため、学校での指導を公平に下審査した後、最終審査では、審査長として本年も文部科学省の3人の教科調査官の先生方をお迎えして、学習指導要領に則った教育本位の審査を行っていただきました。

今回は11月20日から4日間、熊野町民会館で感染症対策を講じて、筆都大賞以上の優秀作品約千点の展示を行いました。例年行っていましたが表彰式は本年も中止といたしましたが、展覧会場の様子は、全国から見ることもできるようホームページ上で2週間配信いたしました。

結びに、本展覧会の運営及び開催に当たり、内閣府、文部科学省、広島県、広島県教育委員会を始め、共催やご後援、そしてご協力をいただきました関係各機関・団体に対し、厚くお礼を申し上げまして、ご挨拶といたします。